

今週（12月5日から12月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、各業態の調達意欲に大きな変化は見られず、出会い水準は引き続き低位での推移となった。5日から8日までの無担保コールO/N物は、調達意欲が弱い中、個別ではビッドレートに多少の上下が見られたものの、全体としては概ね横這い圏での推移となり、加重平均レートも▲0.078~▲0.077%の低水準での推移となった。9日は今積み期最後の週末となった事で、ビッドサイドに若干厚みが増し、出会いレートは僅かに上昇した。

ターム物は、ショートターム物を中心に▲0.08~▲0.07%近辺の水準で引き合いが見られた。

日銀当座預金残高は、5日に480兆円強で始まったものの、30年債や5年債の発行を一因に、9日には470兆円台後半まで低下する見込みとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.11~▲0.085%近辺での取引となった。

オファーサイドの資金調達姿勢が強くなったことで、レートは上昇する展開となった。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は動意に乏しく閑散とした状況となった。週後半は、8日に6M物の入札が実施され、やや強めの結果となった。入札結果を受け、その後の6Mゾーンはやや堅調な推移となった。翌9日には3M物の入札が実施され、こちらも事前予想に比べ強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでもしっかりと推移が見られた。

短国買入オペは、6日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、全取利回り較差、平均落札利回り較差ともに+0.021%と、弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、機械・電気機器・石油・不動産等の幅広い業態から大型発行が見られた事で、週間の発行総額約8,650億円に対し、償還総額は5,480億円となり、3,200億円程度の発行超となった。

市場残高は、週を通して28兆円台で推移するなか徐々に増加する展開となり、8日には今年8月以来となる28兆5,000億円台に達した。

発行レートは、引き続き0%から浅いプラス圏での出会いが中心となったが、期間の長いものについては先行き不透明感から投資家需要が乏しく、レートにバラつきも見られた。

CP等買入オペは、8日に事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分落札レート0.001%、平均落札レート0.013%と前回（按分落札レート0.001%・平均落札レート0.014%）比で按分は横這い、平均は僅かに低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/5 (月)	27,820.40	0.250	134.68	△ 0.078	△ 0.107	4,806,200
12/6 (火)	27,885.87	0.250	136.50	△ 0.078	△ 0.101	4,804,700
12/7 (水)	27,686.40	0.250	137.27	△ 0.077	△ 0.099	4,793,200
12/8 (木)	27,574.43	0.250	136.57	△ 0.077	△ 0.101	4,800,000
12/9 (金)	27,901.01	0.250	136.88	△ 0.077	△ 0.099	4,773,300

来週（12月12日から12月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/12 (月)	11月の企業物価指数(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)		11月の米財政収支
12/13 (火)		流動性供給 5,000億円 12/14発行	米FOMC(1日目) 11月の米消費者物価指数
12/14 (水)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 10月の機械受注統計(内閣府 8:50)		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 11月の英消費者物価指数
12/15 (木)	11月の貿易統計(財務省 8:50) 10月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	20Y 12,000億円 12/16発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 英中銀MPC結果発表 11月の米小売売上高 11月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月の米企業在庫
12/16 (金)	10月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 60,000億円 12/19発行	11月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
12/12 (月)	▲ 1,100	▲ 14,400	▲ 15,500	国債買入 国債補完 社債買入	11,000 ▲ 200	100	10,900	▲ 4,600	TB3M発行▲60,000償還56,000 TB6M発行▲40,000償還27,700
12/13 (火)	▲ 2,500	1,000	▲ 1,500	CP買入		4,000	4,000	2,500	
12/14 (水)	▲ 1,000	▲ 7,000	▲ 8,000	貸出増加支援	▲ 17,000		▲ 17,000	▲ 25,000	源泉税揚げ 流動性供給▲5,000
12/15 (木)	▲ 500	74,000	73,500				0	73,500	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲1,800 個人向け3・5Y償還700 交付税借入▲13,000期日13,000
12/16 (金)	▲ 2,000	16,000	14,000				0	14,000	TB6M償還27,600 20Y▲12,000
週間合計	▲ 7,100	69,600	62,500	—	▲ 6,200	4,100	▲ 2,100	60,400	

12/12は日銀予想、12/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となるが、現時点では調達意欲が高まる兆候は見られていない。無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.08～▲0.07%程度での推移が予想される。債券レポGC O/N物は、積み最終日に向けた取引となる中、▲0.09～▲0.08%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、16日に3M物の入札実施が予定されている。また、13日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、特段のイベントは無いものの、例年12月は季節要因から発行残高が膨らむ傾向にあるため、市場動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、14日に12月調査の日銀短観、海外では、13日に11月の米消費者物価指数、14日に米FOMC(2日目)、FRB 米経済見通し発表、11月の英消費者物価指数、15日にECB定例理事会、英中銀MPC、16日に11月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。